

平成30年度 国民保護研修会 in 愛知

- ◆日時 平成30年12月14日（金） 15:30～17:10
- ◆場所 豊田市民文化会館 小ホール（愛知県 豊田市）
- ◆主催 内閣官房 / 愛知県 / 豊田市



本日ご登壇いただき、コーディネーターとして、豊田スタジアムでラグビーワールドカップが開催されます。万が一の事態にもしっかりと対応できるよう、対処能力の向上、並びに関係機関との連携強化を図り、事前の準備に万全を期していきたいと考えています。そこで、来年の1月11日には、国と豊田市との共同による、大規模テロの発生を想定した国民保護共同実動訓練を実施します。本日も多くの関係機関の皆さんにご参加をいただきまして、来年実戦的な対処能力の向上につながる訓練が実施できるよう、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

国民保護は、武力攻撃や大規模テロが起きた際に、国民の生命・身体・財産を守る仕組みですが、日本では自然災害に比べると、こういった事態への危機感が薄いのが現実かと思われます。幸いにも日本では、国民保護法が適用されるような事態はこれまで起きていませんが、国際的には、平成二五年のボストンマラソン連続爆破テロ、あるいは平成二九年のマンチャエスター・コンサート会場爆破テロなど、さまざまな事案が現実に発生しています。

来年九月には、豊田スタジアムでラグビーワールドカップが開催されます。万が一の事態にもしっかりと対応できるよう、対処能力の向上、並びに関係機関との連携強化を図り、事前の準備に万全を期していきたいと考えています。そこで、来年の1月11日には、国と豊田市との共同による、大規模テロの発生を想定した国民保護共同実動訓練を実施します。本日も多くの関係機関の皆さんにご参加をいただきまして、来年実戦的な対処能力の向上につながる訓練が実施できるよう、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

主催者挨拶

愛知県防災局長



相津 晴洋

本日は年末の大変お忙しいところ、多数の方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

練にご協力をいただく皆さまへあらためて御礼を申し上げますとともに、ご参加の皆さまにとって、本研修会が意義のあるものとなりますことをご祈念申し上げまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

豊田市副市長 杉山 基明



本日はお忙しい中、国民保護研修会にご参加いただき誠にありがとうございます。来年の九月、いよいよラグビーワールドカップがこの豊田市にやつてまいります。国際都市としての飛躍・発展を目指す本市では、世界へのさまざまな情報の発信、地域の活性化・国際化に力を入れ、市民と共にワールドカップの開催を機に、豊田市へお越しいたる多くの皆さまの安全を確保し、安心して楽しく観戦、観光いただける環境を整えていくことが、我々の責務であると考えています。

このような中、1月11日には、ワールドカップの試合会場である豊田スタジアムでのテロ事案を想定した国民保護共同実動訓練を、国や愛知県の皆さまと共に実施することによって、安全・安心な豊田市を確立することができると思います。

平成三十年度国民保護研修会登壇者

※敬称略・順不同

○パネリスト	○パネリスト
福田 充	山口 英樹
(日本大学 危機管理学部 教授)	(内閣官房 内閣審議官)
塚本 誠	相津 晴洋
(株式会社豊田スタジアム 取締役管理部長)	(愛知県 防災局長)
北川 喜己	北川 喜己
(名古屋接骨会病院 副院長・救命救急センター長)	(豊田市 副市長・救命救急センター長)

パネルディスカッション スポーツイベントにおけるテロへの備え ラグビーワールドカップを見据えて

実現させる上で大変ありがたく貴重な機会を頂いたと感謝しています。この訓練に先立ち開催する本日の研修会では、パネリストの方々にテロ事案への対処について、それぞれのお立場から貴重なお話を頂けるものと思います。ご参加いただいた皆さまには、この場を通して、テロなどの災害が発生した場合の避難・救援活動などについて、より一層理解を深めていただければと考えています。

最後に、本日の研修会、及び来月の訓練の実施に当たりまして、大変なご尽力をいただいている内閣官房、愛知県の方々をはじめ、ご関係の皆さまに改めて感謝を申し上げるとともに、本日の研修会が、ご参加いただいた皆さまにとって意義のあるものとなりますよう、心よりお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



福田 充 氏

されました。二〇一五年にも、シリアでイスラム国によって湯川遙菜さんと後藤健二さんが人質に取られ、身代金二億ドルを要求される事件があり、湯川さんと後藤さんは殺害されました。

これらは国際的なテロリズム研究の観点では人質テロ事件にあります。二〇一六年には J

ICA のスタッフとしてバングラデシュのためにダッカで働いていた日本人が襲撃され七人が亡くなられました。

五年の地下鉄サリン事件、その前の松本サリン事件以降は起きていませんが、世界では連日のようにテロ事件が起き、日本人も巻き込まれている現状があります。

五年の地下鉄サリン事件、その前の松本サリン事件以降は起きていませんが、世

界では連日のようにテロ事件が起き、日本人も巻き込まれている現状があります。五年前には、ソフターゲットが狙われるということがあります。私が定義するソフトターゲットとは、国際的な政治家、若しくは選手・メディア・観客が世界中から集まつてくるメディアイベントとワールドトレードセンターなどのようなランドマークです。

三つ目は公共機関と公共施設。駅やラグビーワールドカップ、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツイベントもテロの標的になる可能性があります。最近では二〇一三年にボストンマラソン、二〇一七年にはイギリスのマンチェスターで、著名なアーティストのライブ会場で爆弾テロがありました。これらは、スポーツイベント、メディアイベントというソフトターゲットを狙つた無差別の爆弾テロでした。これらのテロの容疑者にはホームグランプリ型テロ、ローンウルフ型テロという特徴がありました。

件のように、イスラム教原理主義が過激化して、アルカイダ若しくはイスラム国といったテロ組織が、世界的な聖戦として世界中でテロを起こすこと（グローバルジハード）が現代の潮流になっています。しかし他にもテロの原因是多様です。例を上げると、民族独立運動の過激化、階級闘争の中で発生するテロリズムもあります。現代では、動物愛護運動や環境問題の運動の過激化、反グローバリズムなどの多様な原因で、テロリズムが起き得るという時代背景もあります。

その中でも現代のテロリズムの特徴は、次に挙げる四点が中心になります。

一つ目は無差別テロ。かつては権力者、大統領や王様が狙われて国家が転覆され、国家体制、政治を変革することがテロリズムの目的でした。しかし現代は警備が非常に厳しくなって難しくなったこと、また一般市民を狙つても十分に社会に大きな影響を与えることが、無差別テロが拡大している一つの原因となることがあります。

二つ目は、ソフトターゲットが狙われるということがあります。私が定義するソフトターゲットとは、国際的な政治家、若しくは選手・メディア・観客が世界中から集まつてくるメディアイベントとワールドトレードセンターなどのようなランドマークです。

三つ目は公共機関と公共施設。駅やラ

イブ会場、今回のような競技場やクラブなど、不特定多数が集まるところがテロで狙われやすいという問題があります。

四つ目は、ホームグローブ型テロ。その

傾向について、日本人のテロに対する不安は、潜的に非常に増加してきている一方で、自治体や企業の危機対応についての調査では、自然災害への対策は進んでいます

が、テロの場合、四割前後しか対策を立てていません。現代のテロ対策と世論の傾向について、日本人のテロに対する不安は、潜的に非常に増加してきている一方で、自治体や企業のテロ対策は、や

や遅れているというギャップがあります。

また、テロ対策や情報活動の強化には賛成していますが、監視社会の強化や人権の抑圧には不安を感じている側面があります。

テロ対策の中でも、安全・安心のための

■ 福田・本日は平成三十年度国民保護研修会 in 愛知、スポーツイベントにおけるテロへの備え、ラグビーワールドカップを見据えて、この国民保護、テロ対策というものが必要になるのかをお話しいたします。先日フリーイヤーナリストの安田純平さんが、三年ぶりに拘束を解かれて帰国

しました。まず現代のテロリズムについての問題や特徴をお話しし、来年の日本でのラグビーワールドカップ開催に向けて、なぜこの国民保護、テロ対策というものが必要になるのかをお話しいたします。先日フリーイヤーナリストの安田純平二〇〇一年のアメリカ同時多発テロ事

現代テロリズムの潮流

練の実施に当たりまして、大変なご尽力をいただいている内閣官房、愛知県の方々をはじめ、ご関係の皆さまに改めて感謝を申し上げるとともに、本日の研修会が、ご参加いただいた皆さまにとって意義のあるものとなりますよう、心よりお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

■ 福田・本日は平成三十年度国民保護研修会 in 愛知、スポーツイベントにおけるテロへの備え、ラグビーワールドカップを見据えて、この国民保護、テロ対策というものが必要になるのかをお話しいたします。先日フリーイヤーナリストの安田純平さんが、三年ぶりに拘束を解かれて帰国

て自由・人権等が損なわれる。その二つの価値のバランスをどのように取るのかと、いう点について、国民・市民の中での合意形成が必要になつくると思います。本日はそのような観点から、これからテロ対策について、国民保護訓練についてどうあるべきか、パネリストの皆さんから多くの貴重なご意見を頂きたいと思います。

政府の国民保護の取組について



山口 英樹 氏

■ 山口…来年の九月二十日からラグビーワールドカップが開催されます。二〇二〇年には東京オリンピック・パラリンピックも予定されています。政府は、大会の安全・円滑な準備及び運営、継続性の確保、並びにテロなどの未然防止と、サバーパー攻撃も含めた緊急事態への適切な対処を図るという考え方に基づき、対策に取り組んでおります。私は内閣官房で国民保護を担当していることから、国民保護の仕組みについてご説明をさせていただきます。国民保護とは、万が一武力攻撃や大規模テロなどが起こった場合に、国と地方公共団体、関係機関が協力して住民の皆さまを守る仕組みです。ポイントは三つあります。一つ目は迅速な避難。二つ目が、医療の提供等の被災された住民への救援。そして三つ目が、被害を最小化するための警察や消防、場合によつては自衛隊等による取組です。

平成十年に北朝鮮が二年間で四十発のミサイルを発射し、平成十三年には米国

のテロ対策について、国民保護訓練についてどうあるべきか、パネリストの皆さんから多くの貴重なご意見を頂きたいと思ひます。

同時多発テロが発生しました。これらを契機として、日本においても緊急事態に対する機運が高まり、平成十五年に事態対処法という法律ができました。この事態対処法を受ける形で、平成十六年に国民保護法という法律が作られました。この法律で対象とする事態は、大きく二つに分けることができます。一つが武力攻撃事態です。例えば弾道ミサイル攻撃が我が国にあつた場合に、国民の皆さまをどう守るかです。もう一つは、緊急対処事態で、これには四つの類型があります。

一つ目は、石油コンビナートや原発などが攻撃された事態。二つ目は、大規模集客施設や海上輸送機関・電車などを攻撃された事態です。

他の二つは、手段に着目しています。例えば地下鉄サリン事件のような化学物質によるテロ、あるいは9.11のように航空機を使ったテロです。

もう少し詳しく見ますと三つのポイントがあります。避難と救援、被害の最小化です。国と都道府県・市町村、医療等の関係機関が協力し、対処する仕組みです。通常の自然災害の場合には、まず消防や市町村、あるいは都道府県・自治体が災害対応の最前線に立ち、国がバックアップする形です。しかし、国民保護法の仕組みは、武力攻撃や大規模なテロを想定していますので、避難については、まず国が警報を発令し、都道府県に避難の措置を取るよう指示をします。それを受けた都道府県が避難の指示を市町村に行います。そして、一番身近な市町村、あるいは消防・警察などが中心となり、住民に避難していくたく仕組みになつています。

仮に事案が起きて被害が発生した場合は、救援として医療の提供や避難施設での食事の提供などを行います。そして被

害の最小化では、化学物質の除染、火災発生時の消火活動、警戒区域の設定などがあります。テロは連続的に発生する場合がありますので、より警戒を強め、被害を最小化する取組を取つてまいります。平成十六年に法律ができましたが、平成十七年以降は、国と都道府県、市町村において、関係機関が一体となつた共同訓練を実施しています。来年一月には、豊田市でも豊田スタジアムにおいて消防・警察・自衛隊に実動訓練を行つていただきます。

また、図上訓練も実施しております。

平成二十九年度までに、一八七都道府県で実施いたしております。愛知県におかれても、非常に熱心に取り組んでいただいています。

本年一月に千葉県で行つた共同実動訓練の概要をお話しします。千葉県の幕張メッセは東京オリンピックでの競技会場です。そのため、幕張メッセのイベントホールでサリンがまかれた想定で救出・除染、医療機関で救護訓練等を実施しました。

化学剤散布の想定のため、消防や警察が防護服を着て、被災者の救出、化学剤の検知対応、化学剤が付着している方に対する除染を実施しました。自衛隊は応急救護活動、医療機関へのヘリ搬送、更には会場の除染活動を実施しています。

テロの場合には、警戒を行いながら被災者を搬送する必要がありますので、自衛隊の警護の下に搬送も行つています。またパラリンピックも予定されていますので、車椅子利用者の避難や、避難所における外国人支援についても訓練を実施しています。

最後に、テロ対策以外の国民保護活動として、内閣官房の国民保護ポータルサイトについてご案内させていただきます。この中には過去の訓練資料や写真等も入っており、昨年、一昨年は弾道ミサイルでの位置情報を用い、最寄りの避難所を検索できる機能も付加していますので、ぜひお試し下さい。

愛知県の危機管理



相津 晴洋 氏

県庁の防災局における組織体制は、防災局長の下に三課一室で構成されています。本庁舎には約百名の職員、そして地方機関では、七つの庁舎に約四十名の職員が、自然災害対策を中心とした防災局の仕事に従事しています。

この中で、国民保護・危機管理に関する防災危機管理課が所管しており、テロ等の武力攻撃事態が発生した際には、その事態の規模に応じ、必要な体制を検討することとしています。

本県は、平成十八年に愛知県国民保護計画を策定して以来、県と市町村職員に対する国民保護・危機管理研修会を開催し、隔年で啓発パンフレットを発行するなど、意識の向上に努めており、新たに対する国民保護・危機管理研修会を開催し、防災局に配置された職員や七年目の職員に対しましては、危機管理の研修を実施しています。また共同訓練につきましては、本県ではこれまで実動訓練を一回、図上訓練を三回実施しており、来年一月

過去四回の訓練の実績については、名古屋市、豊田市、豊橋市と共同で実施しており、二八年度には豊田スタジアムを舞台とした図上訓練を行いました。訓練の想定として、化学剤を用いたテロや爆発物を用いたテロを想定し、実施していました。近年のテロは、爆発物を用いたテロの割合が大きいため、今回の訓練においてもEテロを想定しています。

最後に、訓練の概要についてご説明いたします。来年の一月十一日に豊田市で訓練実施を予定しています。ラグビーワールドカップの会場である豊田スタジアムを舞台としました。ラグビーワールドカップの試合中に、観客席で不審物が爆発し、多数の死傷者が発生するという想定です。それを受けまして、被災者の救出・救助、避難誘導等を実施します。また、サブ会場である豊田市役所では、対策本部を立ち上げ、図上訓練を実施します。図上訓練と実動訓練を連携して進めているという、ハイブリッド型訓練としての取組みになります。その他医療機関として豊田厚生病院、トヨタ記念病院における医療救護訓練、豊田市民文化会館における避難施設運営訓練、寺部小学校における屋内退避訓練などを並行して実施します。

■北川・医療の観点から、病院の受入れ、あるいは一般的の皆さまにぜひ知っておいていただきたいことをお話ししたいと思います。災害の種類で自然災害、人為災

スポーツイベントにおける テロへの備え



北川 喜己 氏

害という分類があります。今回のテロリズムは複合災害の中に入っています。

主にCBRN

といいまして、

化学・生物・

放射線・核・

爆薬等を用い

た形での災害

です。具体的

には、Cは化

学剤（サリンなど）、Bは生物剤（天然痘等）、Rは爆弾などに放射性物質を混ぜる、Nは核爆弾のようなものが爆発、Eは爆発物での災害です。これらによつて破壊活動を行うことをテロと言います。実際は、ほぼ七割がEの爆発物です。

それに応じて、基本的には原因物質ごとの縦割りになっています。放

射線のRやNに対しては、被ばく医療機

関に運び、Bの生物に対しても、感染症

の指定病床、Cの化学剤は中毒等を診る

救命救急センター、Eの爆発に関しては

外傷センター、あるいは災害拠点病院で

診ることになります。

ただ、必ずしも、きちんと分類され

搬送できるわけではありません。例えば

地下鉄サリンも、最初は地下鉄の中で爆

発が起きたという話で、かなり時間がた

つてからサリンだということが分かりま

した。そうすると、結局は直近的一般病

院が対応せざるを得ないことになります。

そのため、それぞれの一般病院でも対応

を考えおく必要があります。現在は政

令指定都市をはじめ、全国の消防本部で

は、CBRN

災害に対して現場で除染し

てから病院に運ぶことで、二次災害を防

ぐ計画を進めています。

とはいって、一般病院はそういう除染な

どを考えなくてよいわけではありません。

実際に事が起きますと、患者は直近の救

命の医療施設、一般病院に来るわけです。地下鉄サリンでは、実際に救急隊が救急救車で運んだのは患者の二割、残りの八割はタクシー、あるいは直接歩いて医療機関に来院しました。そのため、除染も含めた対応をそれぞれの一般病院、救急医療施設は考えておき、初動の対応マニュアル、あるいは必要な資機材の整備をする必要があります。現実的には、先ほど話をした縦割りのそれぞれの医療機関は、専門的な助言をする、あるいは後方医療機関として、患者の受け入れをする形になります。

直近の一般病院は、事が起きたら院内に災害対策本部を設置し、患者が来ると

きに、病院の入り口を一か所に制限して、

必要に応じて除染をしてからいろいろな

科に入れるという、ゲートコントロール

を行います。そのゲートコントロールを

きちつとした上で除染の判断をして、実

際には病院の中でも治療をすることを考

えて

いるわけです。

テロなどの有事と言われる事態対処には、もちろん政府要人を狙った大きな国際テロが一つあります。けれどもローンウルフ型では、皆さまが今座つておられる隣の方のバッグの中に実は爆弾があつて、それが爆発をするというようなことも十分にあり得ます。ですから少人数の被害、あるいは死者・けが人への待機も考えておかなければいけません。今回のラグビーワールドカップでも、この両方の形を考えておかないといけないだろうと思っています。

最後にターニケットのお話をします。

通常の交通事故などでお腹や胸の中に出

血する場合、出血が始まつてから心臓が

止まるまでは、大体一時間弱ぐらいと言

われています。ただ、先程の話のよう

な四肢外傷で大きな動脈から出血しますと

本当に数分で心臓が止まります。そのた

め、ゆっくりと対応していくことは、病院に

運ばれる前に亡くなってしまうことにな

ります。圧迫止血が出来ない場合には、

ターニケットでしつかりと血を止めるこ

とも非常に有効です。実際にボストンマ

ラソン等でもこのターニケットが普及し

て、三分の一は消防士、三分の一は市民

が巻いて実際に助けています。今後一般

の皆さまにもこのターニケットが普及

していくと思いますので、興味をもつて見

て、あるいは使っていたければと思つ

っています。

そのため、不用意に入ら

ない、近づく場合は現場の安全が確認されから、ということになります。

それから、災害の常識にとらわれすぎない事が重要かもしれません。現場でゆっくりトリアージをしていくと、出血

が多くなつて亡くなることが多々あります。

ですので、トリアージよりはターニ

ケット等で止血を優先しないといけませ

ん。また、医療機関の関係者については、

場合によつては、現場から少し離れない

といけないかもしれません。さらに、け

が人の中に犯人がいる可能性があること

も考えると、病院の入り口ではボディー

チェック等を行わざるを得ません。

豊田スタジアムの危機管理対策



塚本 誠 氏

国民保護研修会 in 愛知 ◆パネルディスカッション

■ 塚本・当社、豊田スタジアムはトヨタ自動車他、地元企業の皆さまと豊田市による第三セクターの会社であり、指定管理者としてこのスタジアムの管理運営を請け負っています。

豊田市のランドマークである豊田スタジアムは、豊田市駅から徒歩約二十分で、矢作川沿いの、緑豊かな豊田市の中中央公園内に位置し、豊田市政五十周年を記念して、二〇〇一年の七月にオーブンしました。現在は年間で一七二万人が訪れる東海地区有数の集客施設です。

名古屋グランパスのホームの試合の他、

地元のトヨタ自動車のヴェルブリッツを

初めとするラグビーのトップリーグ、更

には大規模なコンサートイベントの会場

としても利用されています。

施設概要として、四万平米の建築面積

を有し、球技専用スタジアムでは、埼玉

スタジアムに次ぐ国内第二位の、四万五

千人を収容するスタジアムです。施設の

特徴は、観客席の最前列からピッチまで

は五メートルであり、観客席の傾斜と四

本のマストによるつり上げ構造により柱

も壁もないため、どの席からもピッチ全

体が見渡せる劇場型のスタジアム空間となっています。

今回のメインテーマであるラグビーワ

ールドカップは、来年九月二十日から全

国の大十二会場で行われ、豊田スタジアム

でも八か国による四試合が開催されます。

また、ピッチ以外でも、豊田マラソン、

コンサート、野外ロックフェスティバル

の他、産業展とよたやガーデニングフェスタ、消防の出初式など、市が主催する数万人規模のイベントも行われています。

その他にも、このコンコースや隣接する広場が広く、会議室も多数有し、企業の商品の見本市や、講習会、各種団体のイベントや講演会、フリーマーケット、地元の皆さまの夏祭りの会場等に一年を通して幅広くご利用いただいております。

次に、こうした大規模集客施設の危機

管理対策における、実際の話をいたしま

す。我々、施設管理者としての危機の対

象は、地震や台風・大雨・落雷といった

自然災害と、火災や爆発、あるいは停電

や機械トラブルといった事件・事故の二

つであると考えており、これらへの対処

が求められます。まず基本となるのは通

常警備です。三六五日二十四時間、複数

の警備員を配置し、夜間・早朝巡回の他

に、スタジアムの内外に設置した一〇五

台の監視カメラで監視態勢を敷いていま

す。

次に本題の、イベント開催時の危機管

理です。サッカーもコンサートも、イベ

ント開催時は主催者が警備主体になります。

我々は施設管理者ですので、その主

催者の警備態勢に組み込まれて協力する

形になります。従いまして、Jリーグで

は名古屋グランパスが、日本代表戦では

サッカー協会がこの警備主体です。運営

マニュアルを作成し、警察署との協議を

経て、運営・警備態勢を定めています。

先日、十一月三日のグランパス対ヴィッ

セル神戸戦では、イニエスタ選手がいた

ため観客が多数入り、運営スタッフが三

九七人、場内警備員が一六七人、周辺警

備員が七四人でした。これに加えまして、

豊田警察署の三五人の署員の皆さんに、

場内各所の警備詰所に待機、巡回してい

ただき、豊田市消防署の救急隊にも待機

していました。もちろん、その入

場ゲートにおいては手荷物検査を行って

います。

またJリーグでは悪天候・地震・テロ

犯行予告・ミサイル等、対応ごとにガイ

ドラインがありまして、緊急時の対応マ

ニュアルが定められています。例えば緊

急地震放送があり、震度四以上であれば

試合は中断。またJアラートによりミサ

イルが発射されたという情報が流れれば、

これも試合が中断され、マッチコミッシ

ヨナーや審判員、更には警備主任がその

後の判断を行う流れになります。こうし

たマニュアルを基にして、試合ごとに避

難警告を含む警備態勢を定めて、危機事

態に備えています。当然、緊急事態の内

容や程度によりましては、警察署や消防

署も迅速に対応することになります。

次に安全管理の設備ですが、監視カメ

ラ一〇五台の他に、自動放水銃三台を有

しています。適切な避難誘導やパニック

防止には、来場者に対する迅速な情報提

供が重要と考えており、現在、二基目の

大型映像装置の設置工事を進めています。

この他、本年七月、当社独自のデジタル

サイネージを七四台設置しました。これ

らは、試合観戦の魅力をアップさせてい

く映像の装置ですが、危機管理のための

安全設備としても活用する予定です。

警備体制と安全設備を紹介しましたが、

次に、これらが実際に機能するには、や

はり消防・警察・医療機関等との日頃の

情報連携と、訓練が最も重要な認識して

います。Jリーグをはじめ大型イベント

の開催時は、主催者と共に警察署や消防

本部に出向きます。イベントの内容や

警備態勢をお話しし、毎回アドバイスを

頂いて進めています。更に消防訓練等で

ますが、毎年消防本部の訓練に合同参加を

させていただき、今年は十月に警察・医

師会・病院・看護専門学校・外国人のモ

ニターの皆さまなどの参加によりまして、

多数傷病者救急事故対策訓練を実施しま

した。また十一月には、警察機動隊、岡

崎消防本部、そして衣浦の消防本部の参

加による、爆弾テロを想定した訓練に社

員や委託業者の皆さまも参加しました。

大規模施設での災害事故は、施設を最

も把握する施設の管理会社に、迅速で適

切な対応が求められていると思っていま

す。言い換えば、現場力というべきも

のが重要と認識しています。今後も、主

催者・警察・消防・医療機関等の皆さま

と、情報共有や連携を強化しまして、危

機管理対応力を高めたいと考えています。

ディスカッション

■ 福田・ここからはフリー・ディスカッションに移ります。テーマを二つ用意しました。一点目は、ラグビーワールドカップの試合でテロ事件が発生したら、多くの観客・メディア・選手が集まっている

現場はどうなるのかについて、お話を伺えればと思います。

まず山口様から、テロ事件が起きたときには、事態で設置される対策本部には多くの関係機関の方がいると思いますが、一体どのような指揮命令系統となり、情報伝達の問題が起きるのでしょうか。

ニターの皆さまなどの参加によりまして、

多数傷病者救急事故対策訓練を実施しま

した。また十一月には、警察機動隊、岡

崎消防本部、そして衣浦の消防本部の参

加による、爆弾テロを想定した訓練に社

員や委託業者の皆さまも参加しました。

大規模施設での災害事故は、施設を最

も把握する施設の管理会社に、迅速で適

切な対応が求められていると思っていま

す。言い換えば、現場力というべきも

のが重要と認識しています。今後も、主

催者・警察・消防・医療機関等の皆さま

と、情報共有や連携を強化しまして、危

機管理対応力を高めたいと考えています。

■ 山口・塚本様からのお話にあつたよう

に、ラグビーワールドカップでは、組織

委員会で警備対策のマニュアル等を作ら

れているそうです。それに基づいて、会

場ごとに警備・主催者・警察・消防・医

療関係者・施設管理者が入った警備態勢

が求められると思います。事態が起こつ

たとき、その態勢に基づいて迅速な対応

を取ります。住民や観客をどう避難させ

るか、当然被災者への対応も出でてきます。

警察・消防などの機関が対処しますが、それぞれが、ばらばらに動いてしまうと、非常に対処が難しくなります。そこで効果的に対処をするために警戒態勢を整えること、訓練を行うことが求められると思います。来年の一月に実際の部隊が入り、国民保護法のスキームを使った実動訓練を行います。まずは態勢をしっかりと作り、その上で訓練を行うこと、関係機関同士のコミュニケーションをしっかりと図ることが、とても重要だと思います。

豊田スタジアムは、既に多くのイベント開催実績もあり、また警察や医療等と合同の各種訓練をされているとのことで、来年のワールドカップでも生かされると感じました。

■福田・試合中にテロが発生した時の対応として、県はステーキホルダーの中でも中心的な役割を担われると思います。相津様、県の立場からお願ひいたします。

■相津・大地震をはじめとする自然災害が起きたときに取る態勢に準じて対応します。具体的には、豊田市で起きた場合、豊田市役所の中に本部を設置し、現地に対策本部も作ります。県も、県庁自治センターの災害情報センターに速やかに災害対策本部を立ち上げ、そこに関係機関・自衛隊・警察・消防・医療機関も含めて参集します。そこで現地からの情報を収集して国に速やかに報告をし、国がかかるべき後に事態認定をすれば、正式な本部が設置されます。

■福田・自然災害と違い、犯罪捜査が加わるので、これは主に警察で分担されます。いずれにしても県庁・市役所・現場における三か所から四か所態勢の本部に、関係機関の代表が参集して連携を図り、事態の解決に向けて取り組みます。その取組を確認する訓練が来年の実動訓練で

■福田・非常に多くの関係機関が連携し、情報を共有し、意思決定をする難しい事態がテロなのだろうと思います。北川様、いろいろなテロの中で、世界中で起きているテロは爆弾テロが多いのでしょうか。また、爆弾テロにおける爆傷の救急対応や救急搬送という側面から、何かご指摘やアドバイスを頂ければと思います。

■北川・爆弾テロが多いです。イベントの場合には日時が決まっているので、医療班等の待機ができます。指揮命令系統について、搬送に関しては県庁に医療の本部ができ、現場の救護所と連絡を取りながら実施することになるかと思います。

豊田スタジアム直近に二つの救命救急センターがありますが、良いか悪いかは別にしても、そこに患者が集中することは間違いないでしよう。逆に言えば、その二か所に患者を集めてから分散搬送をします。本来であれば、現場から分散搬送をする形が一番良いのかもしれません、一度直近の病院に患者を集め、そこから分けるという可能性があると思います。

ただ、爆発という状況で、目が見えない、耳が聞こえない、かつ血まみれという患者なので、現場あるいは病院の混乱は避けられないというのが心配です。

■塚本・三万から四万人の観客にどう情報を伝え避難誘導するか、あるいは避難せずに留まるのか瞬時に判断して情報提供をしなければいけません。

我々の持っている施設としては、現在大型映像ビジョンの二基目を造っています。それからサイネージが七四台あるので、画像を使って情報を伝達します。事前に英語と日本語が併記してある画像を四種類作っており、それらをボタン一つで、視覚と聴覚の両方に出していく形で用意しています。それから、サイン表示は英語と日本語という状況ですが、必ずしも英語だけではない、様々な国の方がいらっしゃる可能性があるので、他の言語は今後の検討課題と思っています。

ちなみにJリーグの場合、大型映像と放送は今のところ日本語のみです。また、ワールドカップの組織委員会からの情報によると、英語の自動案内放送を検討中で、導入を現在調整中と伺っています。いずれにしても、事前にマニュアルを作り、どういった事態に誰が判断して、どのようにそれを伝達し、事態を良い方向に導くかです。

我々が一番気にするのは、観客のパニックの防止です。従って、情報を急いで出すより、まずはお客様に落ち着いていただき、その後に正しい情報を流します。的確に正しい方角へ、正しい経路で避難いただくためにも、事前にきちんと立場から、これまでも行政や消防などと詰め、情報の共有が大事だと考えます。

■相津・豊田市とは、平成二八年度に上訓練を行いましたが、事前に防ぐために必要な対策、あるいは地域住民はどういう注意が必要かに焦点を当てた訓練ではなかつたという点を反省しています。防災・防犯といった分野では、市民・県民それぞれの心構えに共通する大事なことがあります。イベント会場に限らず、それぞれの地域がどういう地域で、どういう不審者や不審物があるのか。気付いたときはすぐに通報する態勢などをとがあると思います。

日々の生活の中で習慣づけ、常に危機の中生きているのだという意識をもつて日常生活を送る癖をつけることが、防災・防犯、テロ対策に有効と考えます。このような地域は、簡単に犯行に及ぶことはできず、逃げることもできないという環境かと思います。

今後の国民保護訓練には、そういう観点からも取り組んでいく必要があると思います。

■福田・北川様、病院という医療機関の方々に対し、どう安全を確保しますか。二発目の爆弾もあるかもしれない、どこ

が、未然に防ぐため、若しくは準備のため、これまで活動された中での問題点、行政やその他のステークホルダーの皆さまへのご要望のようなものがありましたらお聞かせください。

■北川..講演の中でも触れましたが、すぐには患者が来ます。一般病院や直近の病院が受けざるを得ないという現実があるので、テロに対処するための研修会等を実施しています。また、外傷センターを中心とした病院群を形成し、有事の分散搬送の計画も県にお願いしています。

ただ、医療単独で動くのではなく、情報等をいただきながら消防・警察・行政の皆さんと連携をしないといけないと思つており、事前の計画や訓練が必要です。一案ではなく、同時多発テロを想定した事前計画を作つておき、計画に基づいた訓練をすることが大事だと思います。

■塚本..次に、国際イベントなど、テロの現場になる最前線にいらっしゃるのが塚本様だと思います。ラグビーワールドカップに向けて、施設や設備を改修して重点を置いた部分、またボランティアスタッフや周辺住民との協力関係の構築における準備をされたことはありますか。

■塚本..ラグビーワールドカップに向け市と県で組織体を作り、さまざまな内容を検討しています。施設面では、ワールドカップ仕様に合わせて音響・照明・安全設備等改修しています。

我々が一番注意しているのは、人と車が会場に来るアクセス経路と、来た後のゾーニングです。誰をどこにどういう形で入れるのか、入れた後はどのエリアに留めるのか、VIPと一般の観客席との分断を図ることなどが必要です。動線とエリアの形作りは、カードやリスト

■福田..今のお話は危機管理のロジスティクス面かと思います。危機管理は、さまざまな社会的な活動や機能がつながり合つて初めて成り立つものだと思います。このワールドカップという世界的なイベントの中で、国民保護訓練、テロ対策がどうあるべきか難しい課題です。来年一月に国民保護訓練があり、九月に試合の本番を迎えるが、関係者と顔の見える関係を構築することは、非常に重要な社会教育であり、リスクコミュニケーションの実践だと思います。そういう経



バンドなどを使うことになるでしょう。組織委員会は、いろいろなシミュレーションをして詳細な仕様を定めますが、動線やエリアに問題があれば改修が必要になります。安全面の取組も、更に進めたいと思います。

■山口..このシンポジウムと訓練は、ワールドカップを想定した国民保護という観点で行います。主催者を含め、消防・警察・自衛隊などの関係する機関が、顔の見える関係をしつかり構築していくことが非常に大事です。今年多くの自然災害がありました、地元の自治体をはじめ、警察・消防・自衛隊にも迅速に出动して対応いただきました。

■山口..このシンポジウムと訓練は、ワールドカップを想定した国民保護という観点で行います。主催者を含め、消防・警察・自衛隊などの関係する機関が、顔の見える関係をしつかり構築していくことが非常に大事です。今年多くの自然災害がありました、地元の自治体をはじめ、警察・消防・自衛隊にも迅速に出动して対応いただきました。

■相津..先ほど福田先生がおっしゃられたように、顔の見える関係の構築が重要です。本日は危機管理の専門の方が多くご出席されていると思いますけれども、一般市民の方にとつては、やはり自然災害の場合には、災害がいかに恐ろしいものかを的確に知るところからスタートします。従つて、テロがいかに怖いものであるかをどのように知ればいいのか、少し考えなければいけないなと思います。その上で皆さんに取つていてただく行動としては、やはり危うきには近づかない、周囲の状況に注意する、早く逃げる。このようなことかと思つています。

■相津..先ほど福田先生がおっしゃられたように、顔の見える関係の構築が重要です。本日は危機管理の専門の方が多くご出席されていると思いますけれども、一般市民の方にとつては、やはり自然災害の場合には、災害がいかに恐ろしいものかを的確に知るところからスタートします。従つて、テロがいかに怖いものであるかをどのように知ればいいのか、少し考えなければいけないなと思います。その上で皆さんに取つていてただく行動としては、やはり危うきには近づかない、周囲の状況に注意する、早く逃げる。このように、どういう形で対応するのがよいのか。あるいは、ご家族が怪我をされたときに、どういう対応をするのがいいのかを、ぜひ考えておいていただけるとよいと思います。ターニケットのことも含めて、ぜひお願ひしたいと思います。

■相津..先ほど福田先生がおっしゃられたように、顔の見える関係の構築が重要です。本日は危機管理の専門の方が多くご出席されていると思いますけれども、一般市民の方にとつては、やはり自然災害の場合には、災害がいかに恐ろしいものかを的確に知るところからスタートします。従つて、テロがいかに怖いものであるかをどのように知ればいいのか、少し考えなければいけないなと思います。その上で皆さんに取つていてただく行動としては、やはり危うきには近づかない、周囲の状況に注意する、早く逃げる。このように、どういう形で対応するのがよいのか。あるいは、ご家族が怪我をされたときに、どういう対応をするのがいいのかを、ぜひ考えておいていただけるとよいと思います。ターニケットのことも含めて、ぜひお願ひしたいと思います。

■塚本..最後にパネリストの皆さんからお一言ずつ頂きたいと思います。塚本さんから順番に、何か伝えておきたいことがあります。よろしくお願ひします。

■塚本..我々はやはり現場におりますので、可能な限り、まず次善の策を練つておこうと思っています。情報の共有をしっかりとやることが意思の共有につながつかりとやることが意思の共有につながつて、その意思の共有が意思の一体感となつて、いざというときのいろいろな判断、あるいは連携につながると思つています。ですので、関係機関との日頃からの情報共有に努めたいと思つています。

■山口..やはり備えあれば憂いなしということで、訓練も含めて、事前の準備を精一杯していくことが大事だと思います。

■山口..やはり備えあれば憂いなしということで、訓練も含めて、事前の準備を精一杯していくことが大事だと思います。

■北川..本日は実際のテロに関しての部分のお話をしました。皆さまは、もちろん自分が怪我をされないことが一番いのですが、もしそういう状況になつた

ときには、どのように対応するのがよいのか。あるいは、ご家族が怪我をされたときに、どういう対応をするのがいいのかを、ぜひ考えておいていただけるとよいと思います。ターニケットのことも含めて、ぜひお願ひしたいと思います。

もしも武力攻撃やテロに遭遇してしまったら

武力攻撃やテロにより警報が発令されたら

みんなの安全を守るために、武力攻撃やテロが迫り、または発生した地域には警報を発令して注意を呼びかけます。テレビやラジオからの情報収集に努めましょう。

◇屋内にいる場合

- ◆ ドアや窓を全部閉めましょう
- ◆ ガス・水道・換気扇を止めましょう
- ◆ ドア、壁、窓ガラスから離れて座りましょう



◇屋外にいる場合

- ◆ 近隣の堅牢な建物や地下街など屋内に避難しましょう
- ◆ 行政機関からの避難の指示が出されたら、指示に従って落ち着いて行動しましょう



武力攻撃やテロの手段としてNBC(核物質、生物剤、化学剤)が使われた場合

武力攻撃やテロなどの手段としてNBC(核物質、生物剤、化学剤)が用いられた場合には、特別な対応が必要となることから、情報収集に努めるとともに行政機関からの指示に従って行動することが重要です。

- ◆ 口と鼻をハンカチで覆いながら、その場を直ちに離れ、外気から密閉性の高い屋内の部屋に避難しましょう
- ◆ 屋内では、窓を閉め、目張りによって室内を密閉し、できるだけ窓のない中央の部屋か、上の階へ移動しましょう



日頃からの備え

地震などの災害に対する日頃からの備えとして実践している、避難用の非常持ち出し品や、数日間を自足できるようにするための備蓄品などは、武力攻撃やテロなどが発生し避難をしなければならないなどの場合においても役立ちます。

◇非常持ち出し品

- ◆ 携帯用飲料水
- ◆ 食品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
- ◆ 貴重品（預金通帳、印鑑、現金など） ◆ パスポートや運転免許証
- ◆ ヘルメット、防災ずきん ◆ 軍手 ◆ 懐中電灯
- ◆ 衣類（セーター、ジャンパー類） ◆ 下着 ◆ 毛布
- ◆ 携帯ラジオ、予備電池 ◆ マッチ、ろうそく ◆ 使い捨てカイロ
- ◆ ウェットティッシュ ◆ 筆記用具



◇備蓄品(3日分が目安)

- ◆ 飲料水（3リットル×3日分） ◆ ご飯（4～5食分）
- ◆ ビスケット（1～2箱） ◆ 板チョコ（2～3枚） ◆ 缶詰（2～3缶）
- ◆ 下着（2～3組） ◆ 衣類（スウェット上下、セーター、フリースなど）



内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>